

第八節 方言

本村で使用せられる言語は殆ど尾張共通に用ひられるものであるから、本村の方言といふも、尾張のそのの範圍を出るものは至つて少い。今當地方で用ひられる方言と見るべきものを舉げると次の通りである。

一、名詞

A 挿入加除によつて轉訛したるもの

通常語 方言又は轉訛音

昨日 きんのふ、きんによう

わらぢ わるんじ、わらんじ、わらんじよ

横 よこた

瓢箪 ひよこたん

石 いしな

牛蒡 ごんぼ

手毬 てんまり

眉 まいげ、まいめ

通常語 方言又は轉訛音

地 ちべた、ぢだ

鶏頭 けいと

笠 ほつたる、ほつたる

小便桶 しょんべき

頬 ほうた

唾 つばけ、つばき

夜 ようさ、ようさり

蛇 へんべ、へんび

かうもり こんもり

B 五十音の同行間で若干音の轉訛したるもの。

通常語 方言又は轉訛音

榎 よの木

虹 ねじ

上 いへ

杖 つよ

ひしゃく ふしゃく

煙管 きしよろ

蚯蚓 めぞ

繭 まい

狸 たのき

通常語 方言又は轉訛音

懐 ほところ

風呂敷 ふるしき

溝 めぞ

夢 いめ

ひたひ ふたひ

庭 みしろ

地 きべた

湯氣 いげ

鉛筆 いんぴつ、えんべつ

雪隠 せんち、せつちん

晩 はんげ、ばんげしま

尾 おんぼ

蜂 はあち

大根 だあこ、であーこ

蕎麥 めぞ、さんぼれ

五十 こん十

剃刀 かみすり
木履 ぶくり
燈心 とうすみ

右手 みにぎ
手拭 てのび

○五十音の同列間で轉訛したもの

通常語 方言又は轉訛音

通常語 方言又は轉訛音

質屋 ひちや

電氣 れんき

南 いなみ

草履 じより

叱る ひかる

枇杷 びや

驚 しやぎ

電 ○ れん〇

三味線 しやみせん

鮭 しやけ

蟬 せび

人 ひと

D 人稱名詞

父 おとつさま、とつと、とつつさま、とつつあ

姉 あんね、あねご、ねえま

母 かかさま、おつか、おつか様

祖父 ぢさま、おぢい

兄 あんや、あにき、にいま

祖母 ばさま、おばあ

B 其の他

通常語 方言又は轉訛音

通常語 方言又は轉訛音

むぐらもち おむら、もぐら

踵 あくと、あつくい

枝 ばえ、ばえんぼろ

隅 くる

上品 だいつう

田圃 とんも

片目 がんち

鬼ごっこ ぼうやい

鳥居 とうりん

蛙 げあーろ、げあーす

塵拂 ざい

泥 べと

舌 べろ

眞 すこ、すこた

かまこ くろ

茶釜 ちやまご、ちやまが

ほくろ ふうすべ

あばた めつた

二、代名詞

A 人代名詞

一人稱 單數 おれ、おら、おらが
複數 おうらあ、おれんとらあ、わしらあ。

二人稱 單數 われ、てまい、おのし、おんし、おめえあ、おめえあさん、おんしや、ひなた
複數 わんとらあ、おんしらあ、てめえあとうらあ、てめえあたらあ、おんしんとらあ

三人稱 單數 あいつ、あれ、あのじん
複數 あれんとらあ、あいつらあ

B 一般代名詞

物 こいつ、そいつ、ちがつ、あがつ

方向 こつち、そつち、あつち、あつち

方向場所 こつちへた、あつちへた

場所 こころあ、そこらあ、ちこころあ

三、數詞

A 使用法を誤つてゐるもの。

動物を數へるに總て一匹二匹といふ。例 牛一匹 鶏二匹

B 意味の傳訛したもの。

少し休むを「ぶく」。少量を表はすに一枚一本の如く「で」あらはす

C 個數を表はすもの

一チヨ、二チヨ。例 三チヨつかまへた。(三匹つかまへた。)

D 誤つて使用するもの

一人をひといいり、しといり、二人をふたいりと云ふが如きである。

四、形容詞

一般に1、五十音のア例より「い」に続く場合(えらいいかい等)に英語のiの長音に近い發音となる。

2、オ例より「い」に続く場合(ぬくといい、むつさらこい等)に咽喉をつめたりの如き發音となる

3、語感に依つて變化したものが多し。

實例について方言の主なるものをあげれば次の如くである。

通常語	方	通常語	方
善	い えい	多	い たんと、ぎようさん、いつくら

美しい	うつつくしい	眩しい	ひびく
馬鹿らしい	とろくさい、あほらしい	無法な	わやな、むちやな
恐しい	おそがい、おそぎあい	大きい	ごえらい、でかい、いから
立派な	すねこい	小さい	ちんびさい、ちんぶくさい、ちんびくさい
壮大な		執念な	ひちくさい、ひつちくさい
悪い	おぞい	同じ	うんなし、おんなし
少い	ちいと、ちびつと、ちまこつと、ちよぼつと	温い	のくとい、ぬくとい
きたない	もさい、もつさらこい、むさい、むつさら	冷い	つべたい、べえたい
息苦しい	こい、らつしもない	羨しい	けなるい、けなりい
	かなしい、えらい		

五、動 詞

A、活用上の一般形。

- 1、過去完了 現在完了………にまつたをつけることが多い 例 書いてまつた。(書いてしまった)
- 2、過去完了 現在完了の未然形「……した」を「……いた」といふ場合が多い。例 燃いた。(燃した)二に三を足いたら五になつた。(二に三を足したら五になつた)。

- 3、使役命令の「……でやれ」を「……たれ」と言ふ。例 書いたれ(書いてやれ)
- 4、使役受身の「せられた」を「された」と言ふ。例 立たされた。(立たせられた)
- 5、現在進行形の方言(本村附近の特殊なものである)
 - 1、總て「ようる」をつける。例 来ようる。(来つゝある)
 - 2、い列の音に「ようる」のつく場合は拗音となる。例 書きようる。話しようる。打ちようる。噛みようる。賣りようる。等。

へ、い列の中「ひ」の場合は「ひ」が消えて「ようる」のみとなる。例 飼ようる。

- 6、未来をあらはす場合に「あーず」を附けることがある 例 行かあーず、食はあーず等(これは古語の行かんず。食はんずの轉訛したものである。)

B 左行變格の轉訛

- 1、す(爲)るをしる す(爲)をしといふ場合が多い。例 仕事をし(する)。早くし(せ)よ。
- 2、す(爲)る。せ(爲)し(爲)をやるといふ場合が多い。例 掃除やる(掃除する)。掃除やれ(掃除せよ)。

掃除やつた(掃除した)の類。

- C 現在形「ゐる」「ある」にて「を」を冠らせる場合の轉訛。例 似てゐるを「似ちゐる」「煮てゐるを」「煮ちやる」

といふが如く「ちよる」「ちやる」を使用する。

D 其の他の動詞に就て方言と思はれるものは次の三種類に分類することが出来る

1、若干音異つてゐるもの

通常語 方 言

動 く いのく、いごく

磨 く になく

にらむ ねらむ

無くなる のうなる

通常語 方 言

沈 む すずむ

蹲踞む かぐむ、こずむ

擔 ふ いなふ

叱 る ひかる

2、加除伸縮するもの

通常語 方 言

蹴 る けつからかす

勘忍する かねする

つまづく けつまづく

端折る はしよる

通常語 方 言

逃がす にならかす

倒 す ころががす

へらす へらかす

附着する へつつく、ひつつく

3、其他變化の甚しいもの

通常語 方 言

言 ふ こく、ぬかす

なぐる ちちす、くらはせる

似合ふ もつてこい

欺 す ちようらかす、ちよんがらかす

投げる おつ、ほかる

當てる つく

準備する まはしする

怒 る ちうわかす

悲鳴をあげる ひいる

捨てておく おつちよく、ほかつちよく

附一 「下さる」「下さる」の變化

1、動詞として單獨に用ふる場合

1、下さいをくる、ちよう、ちよんか、おくりやあ、くれんか。

ロ、下さるをいこす、ちようす、くだれる。

叱 る しやべる

提げつる しよべつる

倒 す ちねる

背負ふ おひねる

止める おく

育てる しとねる

熱くなる やかむ

駄目だ だちやかん、あかん

仰 く あぬく

突倒す つつからかす

なめる ねぶる

ハ、下さつたを ちやうた、ちやうだいた、ちやうした、くれた、おくりあた。くだれた。いこいた。
 ニ、下さるかを いこすか、ちようすか、おくりあすか、くれるか、おくれるか。
 2、動詞の一部分として附随して使ふ場合(…下さる…下さつた…下さるか。)

例 かね(勤忍)してくる、かねしてちよう等語尾の變化は前の通りである。但し…下さるの場合は…して
 いこすを使はないが…してちようだめを加へる。

二、なさいに關する特殊の場合

1、お出なさいをいりやあ、いりあせといふ。

2、御免下さいをごめやあすごみやあす、といふ。

3、お出でなさいをおいぢやあすといふ。

三、なさいに關する場合 例 掃除しなさいを掃除さつせる。掃除しやあす、掃除せやあす等といふ。

六、副 詞

通常語 方言又は轉訛音

少 し (形容詞の少いに同じ)

甚 だ とても

餘 程 よつころ、よつばら

隨 分 あだに

早 く はよ、ちやつと

漸 く やうよと

も う まあ

たいして	えろう、えらいこと	夥しく	だだぼだ
ほとんど	すんでのこと	無暗に	やたくた
必ず	ちやんと	わざと	たいだい
一向	ねつから、だいき、ぞだい	遂に	ころつと
ほんとに	ふんとに、しようとく	皆	みんな
一生懸命	いつせき	久し振り	やつとかめ、えつとかめ
よく	よう(よう食ふ)	否	いんね、なあに、いんにや

七、助 動 詞

A 打消の「ない」をぬ(ん)と發音する。行かないをいかん、讀めないを讀めぬ(ん)の類

同「ない」を「せん」「しん」と發音する。例 走らないを走れせん、走れしんといふ類。

B 「てゐる」を「ちよる」とる「てある」を「ちやる」「たる」と發音する。

例 持つてゐるを「持つちよる」「持つてる」「書いてあるを」「かいちやる」「書いたる」といふ類

C 未來を示す「らう」を「らあず」「はふ」を「はあず」といふ。

例 走らうを「走らあず」「習はふを」「習はあず」「行かうを」「行かあず」といふ類。

D 推量の「らう」を「らあ」といふ。例 明日は天氣であらうを「明日は天氣だらあ」といふ類。

E 「なざる」の時と法とによる變化

- 1、過去をあらはすに「やあた」を使ふ。例 書きやあた(書きなまつた)
- 2、現在をあらはすに「やあす」「せる」を使ふ。例 食べやあす、居らつせら。
- 3、進行形に「ようりやあす」「ようらつせる」「ござる」を使ふ。

例 來ようりやあす、來ようらつせる、笑よござる。

- 4、命令をあらはすに「やあ」「やあせ」「つせ」「やあか」を使ふ。

例 走りやあ、取りやあせ、歸らつせ、やめやあか、(やめなさらぬかの意)

- 5、疑問をあらはすに「せたか」「やあたか」を使ふ。例 行きせたか、おきやあたか)

八、助詞

- 1、「に」を「ね」と發音する場合、例 此處にあるを此處ねある。
- 2、「が」又は「と」の次に「さいが」を入れる場合、例 行くときさいが、踏むときさいが。
- 3、「の」と發音せず「ん」とする場合、例 僕の所の本を僕んこの本、君の方を君ん方といふ類。
- 4、「へ」を曖昧にする場合、例 本屋へ行くを本屋い行く、そつちへやるを、そつちいやる。
- 5、「より」と「は」とを合せて「よりや」といふ場合、例 それよりは強いを、それよりや強い。
- 6、強めの「ぞ」を「じよ」といふ。例 あかんじよ。(駄目だぞ)

九、接頭語、接尾語、接續詞

- 1、なも、えもの例、それなも(それなもしの變化) それでえも(前者と同意)
- 2、やあす、やあせ、やあか、これらは助動詞の部で述べた通りである。
- 3、きやあもの例 そうきやあも、(そがかえもの變化でそうすかの意)
- 4、もの例 何いも、(何えもの變化、何ですつての意)
- 5、わいもの例、あかんわいも(あかんわえもの變化、駄目ですわの意)
- 6、がるの例、よう降りやがる(よく降るの卑語)
- 7、さいが、まい、まいかの例 行くときさいが(行くと)、行こまい(行かう) 行こまいか。
- 8、ばせの例、お上りやあすばせ(お上り遊ばせの變化でお上りなさいの意)
- 9、すかの例、あかすか(役にたちますものかの意)
- 10、げなの例、うそだげな(うそださうなの意)
- 11、れるの例、行かれる(行きなざる) 本を讀まれたか(本を讀みなさつたか)
- 12、念を押す場合、又は無意味に「えいか」を使ふ。又無意味に「あのう」といふ語を使ふ
- 13、ごえらい、ごぬす人の如くごをつけて語を強める事がある。
- 14、行き得ぬ。やり得ぬ場合に「よう行かん」「ようやらん」を使ふ。

十、感動詞

いやだといふべきをべい、べつくら、べつくらさんもんめ、やだなごといふ。
はいといふ言葉の代りに、えい、ふん、うん、おん、あんなごといふ。

以上述べた方言について、その著しい特徴を述べるなら。

- 一、發音上英語のaの音の多いこと。
- 二、語冠でない「い」音を發せず、曖昧音をなすこと。
- 三、「ちよ」「ぢや」等の音を多く交へること。
- 四、抑揚少く齒切れの不良なこと。
- 五、動詞に進行形を有する事。

等であらう。そして以上の分類は、それ等の便宜上分類したもので、もとより必ずしも正確といふことは、出来ぬのである。

大口村誌(終)

昭和十年八月五日印刷
昭和十年八月十五日發行

不許
複製

愛知縣丹羽郡大口村大字大屋敷一三三番戸

著作兼發行者 野田正昇

愛知縣丹羽郡布袋町大字小折四九九番戸

印刷者 牧野一雄

愛知縣丹羽郡布袋町大字小折四九九番戸

印刷所 牧野印刷所

電話 十一番

愛知縣丹羽郡大口村

發行所

大口村役場

電話(布袋)百〇六番